

鹿児島大学医学雑誌の投稿規定(2015.12.11 改訂)

1. 本誌は、医学に関するあらゆる分野の未発表の和文並びに英文の論文を掲載する。論文の採否、掲載の順序、体裁などは、編集委員会が決定する。その他、鹿児島大学医学会集談会抄録や編集委員会で承認されたものを掲載する。

2. 本誌に投稿する論文でヒトを対象とする場合には、ヘルシンキ宣言(1964年採択、2008年修正)を遵守したものでなければならない。また、動物実験の場合には、動物福祉の精神に基づいて倫理的に行われたものでなければならない。

3. 和文原稿について

(1) 原稿は、ワープロを使い、A4判用紙に作成する(目安：40字/行、40行/頁)。作成した原稿を3部の原稿で提出。遠隔の場合テキストファイル形式で保存した電子記憶媒体(CDなど)を提出も可能。

(2) 和文原稿は、和文表題、和文著者名、和文所属機関名、英文表題、英文著者名、英文所属機関名、英文要約(Abstract)、キーワード(Key words)(英語で3～10語)、和文本文(緒言、方法、結果、考察、結論、謝辞)、文献、表、図・写真の説明文、の順序で記載する。原稿は、専門用語以外は、当用漢字を用いて現代仮名づかいに従い平仮名書きとする。

(3) 英文要約は、500語程度とし、結論だけでなく、目的や方法、結果がよく読みとれる内容のものとする。なお、英文は、英語を母国語とする専門家の添削を必ずうけること。

4. 英文原稿について

(1) 原稿は、ワープロを使用し、A4判用紙にダブル・スペースで作成する(目安：90字/行、35行/頁)。作成した原稿をテキストファイル形式で保存した電子記憶媒体を、3部の原稿とともに提出する。なお、英文は、英語を母国語とする専門家の添削を必ずうけること。

(2) 原稿の構成は、英文表題(Title)、英文著者名(Authors' names)、英文所属機関名(Affiliations)、英文要約(AbSTRACT)(500語程度)、英語のキーワード(Key words)(3～10語)、本文(Introduction, Materials and methods, Results, Discussion, COI, Acknowledgements)、文献、和文要約、表、図・写真の英文説明文の順序とする。

(3) 和文要約の内容は、和文表題、和文著者名、和文所属機関名、和文要約(1,200字程度)の順に記載する。

(4) 英文と和文の要約は、結論だけでなく、目的や方法、結果がよく読みとれる内容のものとする。

5. 原稿作成上の注意事項

(1) 本文の形式は、緒言(はじめに、序文)、方法(実験材料と方法、対象)、結果(実験結果)、考察、結論、謝辞の順序が望ましい。なお、総説や症例報告、短報などの場合には、これに準じなくてもよい。

(2) キーワード(英語で3～10語)は、英文抄録のあとにつける。用語は、Index MedicusのMedical Subject Headingsの最新版を参照のこと。

(3) 単位等の略号は、次の例示に従い、ピリオドは付けない。例) g, kg, mg, μ g, pg, L, mL, μ L, m, km, cm, mm, μ m, nm, yr, wk, d, h, min, s, ms, μ s, M, Bq, V, W, Hz, Eq, IU, SD, SEM, n, r, NS, p. 他は国際単位系(SI)の単位記号を参照のこと。

(4) 数を表すには、すべて算用数字を用いるが、成語はそのままとする。例) 一般, 同一。

(5) 表や図、写真は、本文とは別にまとめる。それらの番号は、図1、表1、写真1(英文では、Fig. 1, Table 1, Photo. 1)のごとくそれぞれに一連番号を付し、本文欄以外(右側)に挿入箇所を指示する。

- (6) 表の上に表題を書き、表の下に説明文を記入する。表題と説明文は、和文論文の場合でも英文で書くことが望ましい。表の内部には、原則としてタテ・ヨコの罫線は入れない。表に使っている標準的でない省略形についてはすべてを脚注で解説すること。脚注では、以下のシンボルを次の順序で用いる。*, †, ‡, §, //, ¶, **, ††. 表の幅は、8cm または17cm のいずれかに指定すること。
- (7) そのまま製版を希望する図は、白紙または淡青色方眼紙に墨または黒インクを用いて描く。また、図の幅は、8cm または17cm のいずれかに指定すること。
- (8) 写真のなかに説明（スケールの単位、矢印等）を要する場合は、著者があらかじめ文字や記号などを写真に貼り付けること。写真の幅は、8cm または17cm のいずれかに指定すること。
- (9) 図・写真の説明文：説明文は、図の内容を十分に理解させるに足るもので、和文論文の場合でも英文で書くことが望ましい。
- (10) 図版(plate) とする場合は、1 頁ごとに希望位置を決め、台紙に貼付する。
- (11) 文献は、引用順に番号をつけて最後に一括し、下記の記載例の形式で記す。本文中の記載も「…知られている¹⁾、あるいは…^{2,3)}、……¹⁻⁵⁾」のように文献番号を上付きでつける。著者が7 名以上の場合は、最初の6 名を記し、あとは「ほか」(英文ではet al.) とする。

【記載例】

<学術雑誌> 著者名. 表題. 雑誌名発行年(西暦); 巻: 初頁-終頁.

- 1) 高木邦格, 渡辺康雄, 渋谷健. 脳内アセチルコリンの神経化学的研究: 熱分解GC/MS 法による定量とその応用. 日薬理誌1990 ; 96 : 275-288.
- 2) 納利一. 十二指腸鏡的胆道造影による胆道疾患の診断に関する研究. 鹿大医誌1974 ; 26 (3 補冊) : 1153-1192.
- 3) You CH, Lee KY, Chey RY, Menguy R. Electro-gastrographic study of patients with unexplained nausea, bloating and vomiting. Gastroenterology 1980 ; 79 : 311-314.
- 4) The Royal Marsden Hospital Bone-Marrow Transplantation Team. Failure of syngeneic bone-marrow graft without preconditioning in post-hepatitis marrow aplasia. Lancet 1977 ; 2 : 742-744.

<単行本> 著者名. 表題. 編者名. 書名. 発行所所在地: 発行所, 発行年(西暦): 引用初頁-終頁.

- 1) 西山馨, 黒野昌庸. 必須脂肪酸の生化学と生理作用. 日本ビタミン学会編. ビタミン学[I] 脂溶性ビタミン. 東京: 東京化学同人, 1980 : 312-320.
- 2) Weinstein L, Swartz MN. Pathologic properties of invading microorganism. In : Sodeman WA Jr, Sodeman WA, editors, Pathologic physiology : mechanisms of disease, Philadelphia : Saunders, 1974 : 457-472.
- 3) Colson JH, Armour WJ. Sports injuries and their treatment. 2nd rev. ed. London : S. Paul, 1986.

上記の記載例は、Uniform requirements for manuscripts submitted to bio-medical journals(1991)に準じた。

雑誌名の略記は、List of Journals in Index Medicus 及び医学中央雑誌略名表を用い、不明の場合は略さずに書くこと。

- (12) 添付の投稿申込書に、原稿の枚数、図、表、写真の枚数、図版の頁数、別刷必要部数を所定の位置に記入する。